

# 第7回 京商政策フォーラム ～「活力創造都市・京都」の実現に向けて～

## 第7回京商政策フォーラム 『活力創造都市・京都』の実現に向けて

第7回京商政策フォーラムを開催し、京都モデルの地方創生である「京都創生」の実現に向けて、役員・議員や女性会、青年部の役員など約120名の出席者が活発な議論を行いました。

本フォーラムは産業政策委員会が主管し、「ニュー京商ビジョン」に掲げる「意見・提言活動の強化」を目的として平成20年から開催しています。本所の役員・議員等が一堂に会し、京都が直面している諸課題についての認識を深め、活発な議論を行うことによって、今後の京都のあるべき姿を見出し、提言することを目指しています。

8月4日に開催した7回目のフォーラムでは、全国で始動している「地方創生」を踏まえて、全体テーマに『「活力創造都市・京都」の実現に向けて』を掲げ、中小企業やまちづくり、人材育成をテーマとする3つの分科会に分かれて、京都の発展に向けて求められる施策や経済界が果たすべき役割などについて討議しました。

本所では、今回の議論や産業政策委員会による総括をもとに、行政等への提言・要望活動を展開してまいります。

### 市・京都」の実現に向けて



すべての参加者が集った全体会場で、京都の活力創造や各分科会のテーマについて問題提起する堀場委員長。



その後3つの分科会に分かれて討議し、その結果を全体会場で発表しました。

### 各分科会総括

#### 第1分科会

**テーマ** 「中小企業の活力創造」～新たな価値や販路を生み出す知恵～

**基調スピーチ** 中村 良平 氏（岡山大学大学院教授）

#### 総括

- ・「京都創生」の中心は、地域の産業と雇用を担い、生活に密着した商品やサービスを提供する中小企業である。
- ・高付加価値なものづくりを続けてきた京都企業の精神に磨きをかけ、新たな成長分野やマーケットに挑戦する企業を数多く生み出すべきである。
- ・京都の外から稼ぐ力を強化し、稼いだ資金を地域で循環させることが重要である。
- ・「ものづくり」「観光」「文化」といった京都の強みを活かすとともに、分野を越えた連携によってクリエイティブな商品やサービスを生み出すべきである。

#### 第2分科会

**テーマ** 「魅力と活力あふれるまちづくり」～インバウンド 2000万人時代に向けた都市戦略～

**基調スピーチ** 橋爪 紳也 氏（大阪府立大学21世紀科学研究機構特別教授・同大学観光産業戦略研究所長）

#### 総括

- ・都市戦略として「観光」を位置づけ、交流人口や観光消費の増加を地域経済の成長に結びつけるべきである。
- ・本格的なインバウンド時代を見据えて、「世界交流首都・京都」の実現に取り組むべきである。
- ・国内外の観光客を魅了し、交流人口や定住者を増加させる京都の強みとして、1200年続くまちづくりやものづくりの知恵を継承していくべきである。
- ・観光の質を重視し、ソフト・ハード両面の整備を進めるべきである。
- ・京都ブランドの価値を高めるために、富裕層向けの最高級ホテルの誘致や公共ヘリポートの設置に取り組むべきである。
- ・住民の理解を得た上で、地域を絞った歩くまちづくり等を進めるべきである。

#### 第3分科会

**テーマ** 「高付加価値を生み出す人材の育成」～若い世代の活躍を地域で育むために～

**基調スピーチ** 平山 恭子 氏（一般社団法人 Future Skills Project 研究会 事務局長）

#### 総括

- ・高付加価値を生み出すのは、豊かな感性と主体性を持って変化に向き合い、多様な価値をつなぎノバージョンを起こす「ハイブリッド型」の人材である。
- ・必要となる資質や能力は早い時期に学校教育で学ぶべきであり、産業界と教育界が当事者意識をもって連携を強化すべきである。
- ・競争力ある人材を地域で育むために、京都企業はインターンシップ等を積極的に活用すべきである。
- ・求める人材を獲得するために、中小企業は産学連携による人材育成を活用すべきである。
- ・「大学のまち」として、多くの学生が伝統産業など多様な分野の「ほんまもん」の魅力に触れる機会を創造し、長期的な視点で京都顧客を育てていくべきである。